

## 4 令和4年度学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 都立桜町高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 教諭(総務主任兼務)＝事務局長、総務部員4名 計5名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主幹教諭(総務担当)、主幹教諭(1学年担当)、主任教諭(2学年担当)、主任教諭(3学年担当) 計10名
- (4) 協議委員の構成  
PTA会長、PTA副会長、元PTA会長、同窓会長、学校医、近隣中学校長、近隣自治会代表2名、近隣警察署代表、近隣消防署代表、 計10名

### 2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和4年6月23日(木) 内部委員10名、協議委員10名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出  
学校経営計画、本校の現状と課題の説明、防災教育の計画、意見交換
  - 第2回 令和4年11月24日(木) 内部委員10名、協議委員10名  
学校経営の報告、予算執行状況、これまでの教育活動に関する報告、避難訓練の反省、学校評価の内容検討
  - 第3回 令和5年3月6日(月) 内部委員10名、協議委員10名  
学校経営の報告、予算執行状況、授業公開、これまでの教育活動に関する報告、学校評価の報告、学校運営に関する協議、提言、今年度のまとめと来年度への課題
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和4年11月24日(木) 内部委員2名、協議委員2名  
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察、内容の検討、実施時期の検討
  - 第2回 令和5年3月6日(月) 内部委員2名、協議委員2名  
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書(原案)の検討

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で学校経営計画に基づき評価する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模  
全校生徒・保護者全員・教職員全員は12～2月に実施。※近隣住民は新型コロナウイルス感染症予防のため今年度は実施を見送り。
- (3) 主な評価項目  
学校運営、学習指導、家庭学習、生活指導、進路指導、部活動・学校行事、健康安全指導、学校の施設・設備等
- (4) 評価結果の概要  
学校行事や国際理解教育、地域との交流は、来年度にはある程度コロナ禍以前の状態に近づけることができるため、学校評価アンケートでも肯定的な意見が増えると予想される。しかし、生徒の行事について肯定的な意見は昨年度も今年度も9割を超えていたことから、制限のある中でも充実した活動ができていたと読み取れる。保護者に対しては、ホームページでの積極的な情報発信を継続することや、授業公開の改善、行事等の参観をとおして、学校の取り組みや生徒の活動の様子を見ていただく機会を増やす必要がある。  
教員の取り組みとしては、進路指導、生活指導、安全指導を強化すること、デジタル技術を引き続き積極的に授業等で活用することが来年度に向けての課題として挙げられる。家庭学習については、スタディサプリやタブレットを活用するなど、生徒のもつツールを十分に活用して取り組ませたい。
- (5) 評価結果の分析・考察

#### ① 生徒

学年ごとの回答に大きな差はないが、大学受験を意識している3学年においては、Q1授業において否定的な回答が比較的多い。また、一人一台端末を所持している1学年は、Q12のデジタル技術の活用に関する肯定的な意見が多い。Q13の家庭学習の時間については、1・2学年ともに肯定的な回答が30%前後にとどまっている。

#### ② 保護者

Q8の情報発信について、肯定的な意見が微減している。自由記述でも、「学校に行く機会がないので、

様子が分からない」という声が目立つ。学校行事については、肯定的な回答が多い生徒に対して、保護者の肯定的な回答は比較的少なくなっている。

### ③教職員

Q4 健康管理・安全教育についての肯定的な回答が減少している。Q10 ライフ・ワーク・バランス、Q12 デジタル技術の活用については肯定的な回答が目立つ。また、情報発信についても肯定的な回答が増加した。

## 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

今回の学校評価では学年により差があることが確認されたが、学校評価で肯定的回答が多い学年は、学年運営を含めて生徒が良い環境で学んでいることが明らかになった。今後、地域と学校との交流を深める要望が出されているため、地域のニーズを把握する良い機会となった。また、家庭学習の習慣付けの重要性についても再確認がなされた。

### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

生徒だけではなく保護者との情報の共有が、今まで以上に工夫が必要である。近隣の住民は、学校の協力・交流を望んでおり、それをどう受け止めるかに課題がある。地域社会との連携を深め、今後とも良好な関係を維持・発展させることが必要である。生徒の家庭学習の習慣付けは、学校だけでなく家庭にも応分の努力が求められている。学校として十分に対応しきれていない面もあり、双方の努力を継続し改善に繋げる必要がある。

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

### (1) 学校運営

桜町高校の伝統を維持しつつも、新しい桜町高校スタイルの模索が求められている。行事を中心とした生徒の内面の成長を図る取り組みをさらに進展させ、北京・**ワイ**文中学校との国際交流をさらに積み重ねていくとともに、進学を中心とした進路指導の充実が必要である。

### (2) 学習指導

家庭学習習慣の確立を図るため、授業規律の徹底に加えて、生徒に努力する大切さを学ばせることで家庭学習の習慣化に結び付ける学習活動をさらに推進する。学力スタンダードを学習活動の基本に位置付け、多様な進路希望を持つ生徒に対応しつつ、生徒の進路希望を実現させる教育を推進する。

### (3) 特別活動

部活動の活性化を図り、加入をさらに促進させることで充実した高校生活をおくる基盤整備を行う。新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行った上で、体育祭・文化祭の他、日常から学校・学年行事を自ら主体的に取り組ませるように指導する。

### (4) 生活指導

遅刻指導・頭髪指導を通して、生徒に規範意識を植え付け、自らを律する態度を育成する。

### (5) 進路指導

生徒の進路希望を実現させるため、個に応じた指導を充実させる。現役大学合格率60%を維持しながら、生徒の夢を叶える学習活動を実践し、一般受験合格者の増加を維持し続ける。

### (6) 健康・安全

保健室利用状況の改善を図り、スクールカウンセラーの積極的利用を推進する。

## 6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

### (1) 協議委員人数 回答数 9名/10名中

### (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
2	6	1				1

## 7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

本年度は、いずれの会議にも参加はなかった。

## 8 その他

保護者のアンケート回収率を更に高める方策が必要である。

保護者の来校の機会をさらに増やし、PTAと協力して回収率を高めていく。

今後、学校評価の内容については、新たな検討が必要である。

平成30年度からは、ライフ・ワーク・バランスの推進に関する項目を追加している。

昨年度からは、デジタル技術の活用推進に関する質問項目を追加している。オンラインによる授業配信、ICT環境の充実を図り、デジタル技術を活用した教育を一層推進する。